



開拓百二十年 先人の開拓と自立に学び、未来への希望 「写真文化首都」づくり

「写真の町」東川町長 松岡 市郎

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

本町は今年、明治28年、四国の香川県、徳島県、愛媛県、本州の富山県などからの開拓者の鍬が入って百二十年目を迎えます。今日の素晴らしい東川町を残してくださった先人の皆さまには心から「ありがとうございました」とお礼を申し上げます。

百二十年の歴史の中で、先人たちは有形、無形の素晴らしい財産を私たちに残してくれています。「おいしい水

うまい空気 豊かな大地」があり、豊かな大地には人々が織りなすさまざまな文化が育ってきています。「お米と観光、工芸の町」は、まさに基盤となる産業文化の代名詞となっており、豊かな自然と人々が育む文化との調和によって支えられています。

30年前の昭和60（1985）年、未来を見据えて写真の町を宣言しました。この目的について、写真の町条例は「国際的な交流と写真文化を通じ、世界に開かれた自然と文化の調和する活力と潤いに満ちた

町づくりを推進」と明記しています。

目的には大きく「写真と写心」という2つの意味を含んでいると考えています。前段の写真とは、写真映りの良い社会資本の整備を推進することであり、後段の「写心」は、人としての心を伝える教育、人づくりを推進することです。

町全体が美しく、ゆとりある生産と生活の空間は素晴らしい被写体となり、住民の温かいおもてなしや子供たちへ最高の教育を提供することは、地域を担い、たくましい日本

づくり、世界平和に大きな貢献をする人材が必ず育つものと確信しています。

先人が残した最高の財産である現在の東川小学校は、市街地の中心にあって住民の交流を中心とした新たな社交の場として利用したいと考えています。私たちは地域力の発揮に向けて「写真文化首都」を宣言し、国内外に「写真の町」東川町の自然と人々が織りなす地元の産業、生活文化を発信できるように取り組むたいと考えていますので、今年一年一層の深いご理解とご協力をお願いします。

結びに、本年がさらに最良の年であることをご祈念申し上げます。



新しい歩みを始める年に！

東川町議会 議長 浜辺 啓

一世代三十年とよくいわれます。「ひがしかわ」に生を受けた人は四世代に渡ります。東川に開拓に入った方々から見ると、玄孫（やしゅご）が活躍する時代となりました。

これからの「ひがしかわ」を考えると期待と不安が交錯しますが、どうあろうと、その世代、世代が一生懸命頑張ることだと思えます。そのことが明るい未来に繋（つな）がることは間違いないありません。

今年が開拓百二十年、大

雪山国立公園制定八十年、写真の町宣言三十年、東川小学校新築元年と、多くの節目を迎えます。節目は過去を振り返り、未来に向かっての出発点でもあります。奮（おご）ることなく、さりとして卑屈になることなく前進しようではありませんか！

私の子供のころは学校給食も幼稚園も水道もなく、お米は（北海道米）やっかい米といわれた時代です。今や「東川米」も「旭岳源水」もブランドです。各家

庭のトイレの流し水や飲料水も全部ミネラルウォーターだと話すと、なんとステイタスな生活をしているのか、と羨（うらや）ましがられます。

「ひがしかわ」には素晴らしい資源がたくさんあります。みんなが気が付いていないこと、利用していないこと、提案していないこと、特に将来を担う若者たちが何を考え、どう行動したいのかを引き出し実行してもらおうにしたいと思っています。町民の皆さんが

一度も行ったことのない喫茶店やランチを楽しめる店、ワインバー、ビールバーなど新しい店がいっぱい出ています。旭岳温泉、天人峡温泉へも一度も行ったことがない人もいるのではないのでしょうか。

自分の町を知る、愛するということは、そういう所を訪ねることから始まるのではないのでしょうか。子供たちが自信をもって自分の町を語れる、自慢出来る町にしようではありませんか！ 今年タイの子供たちが百人くらい日本語の勉強にきます。その人たちと交流することも「ひがしかわ」を元気にする要因です。

一歩を踏み出そうではありませんか！